

安曇野市豊科の安曇野赤十字病院で、ボランティアグループが活躍している。自動精算機の扱いが分からない年配の患者に声を掛けたり、車椅子の介助が必要な人に手を貸したりと、親しみやすい病院づくりに

欠かせない存在だ。中高年の女性会員が多く、高齢化や家庭の事情でやむを得ず辞めていく人が増えているのが最近の悩みで、新しい仲間を求めている。

(高石雅也)

患者支える仲間を募集

「ひまわりの会」は、看護師で組織する。この平日の午前中、1人もしくは2人が玄関やロビーに立ち、どの科にどの患者が来ているかを把握し、受付付けや精算に迷う患者の案内、車椅子の介助などを担う。昨年7月に新病棟となったため、環境に戸惑う患者も多いが、会員たちの貢献度は大きい。両会とも無報酬だが、人の役に立つことを喜びとする会員の志



自動精算機の使い方を案内する丸山さん(右)

日赤で活動 ボランティア2グループ

で活動が継続されてきた。しかし高齢化が進み、親の介護や孫の世話などの事情を抱える人も増えているのが実情だ。ひまわりの会がかつて20人ほど会員がいたが現在は10人ほどに減り、さくらの会は先週1人が辞め、現在は活動可能な会員が不在となっている。

ひまわりの会会長の丸山美代子さん(70)は「豊科」は「患者さんからありがとうと言っていただけのがうれしい。人と接するのが好きな方はぜひ仲間になってほしい」と話す。病院は「週1回でもいいので協力していただければありがたい」と呼び掛けている。

関心のある人は同病院(☎0263・72・3170、平日午前8時半〜午後5時)へ。